第１回補正予算補足説明書

1. 入学者数・出願者数（4 月 26 日時点）

第１学期　入学者数 344 名（前年度比 96.9%）
　　出願者数 355 名（前年度比 92.2%）

入学者が減少した理由は、以下の影響が考えられます。

・「若年層」の減少（正科生）

スマートフォンに慣れ親しんでいる若年者が、東京通信大学に流れた可能性がある。

（22 歳までの若年者は、前年度比 73.0% ）

（内訳表１）

年度/出願者	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
正科生（1 年次）	33 名	33 名	24 名

・「若年層」の減少（司書資格目的）

昨年末より、聖徳大学が「1 年で必ず司書資格取得できる」をキャッチコピーに売り出しを開始している。

また、他大学はスマートフォンを意識したページ制作しているため、若年者を逃している可能性がある。

（司書目的の 29 歳までの若年者は、前年比 64.1％）

（内訳表 2）

年度/出願者	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
司書	110 名	142 名	97 名

※資格・リカレント編入学、科目等履修生を対象

・メールマガジンの配信停止

2017 年 12 月より、メールマガジンの配信システムを導入している。この切り替えのタイミングで、2016 年 4 月 1 日以前の資料請求者にはメールマガジンの配信を停止した。（以前は、2014 年度からの請求者にメールマガジンを配信している）この結果、入学者が減少した可能性がある。

（内訳表 3）

年度/対象	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	備考
期間外に資料請求をした出願者	97 名	104 名	69 名	※12 月 1 日以前に 1 度でも請求していればカウント。
資料請求をしていない出願者	129 名	143 名	141 名	

【対策】

（1）スマートフォン向けページの見直し

司書資格の広報に関しては、「就職」をより売りに出したページへの見直しを行う。またリスティング広告も見直しを行う。

（見直し点）

①サポート体制（就職支援事例や企業連携など）の PR

②イメージ戦略（働きながら資格取得した人の事例などを掲載）の PR

（２）メールマガジンの見直し（すでに対応開始も含む）

5 月：通常配信を調整。2012 年からの資料請求者で、かつ出願していない人を抽出しメールを配信。

6 月：5 月に配信した対象者の名簿整理、現在のメルマガと統合。

2. 学生生徒等納付金収入（4 月 26 日時点）

第 1 学期　65,260,500 円（前年度比 101.3%）

（内訳表 4）

学費/年度	平成 30 年度（2018.2/1～4/26）	平成 29 年度（2017.2/1～4/26）
入学金	5,060,000 円	5,480,000 円
授業料	33,700,000 円	33,375,000 円
科目修得試験料	4,758,000 円	4,807,000 円
学籍管理料	7,116,000 円	7,008,000 円
スクーリング受講料	14,626,500 円	13,747,500 円
計	65,260,500 円	64,417,500 円

入学者数が減少している中で、学納金が前年比を超えている理由は、在学生の学納金増加の影響が考えられる。新入生と在学生の学納金比率は、過去 2 年間は新入生が高いが、4 月 26 日時点では今年度の在学生が高い。特に、在学生の正科生（1 年次、学士取得編入学、資格・リカレント編入学）の学納金が増加している。

（内訳表 5）

学生区分/年度	平成 30 年度学納金	平成 29 年度学納金	差額
入学者（合計）	32,472,500 円	34,641,500 円	△2,169,000 円
正科生（1 年次）	3,567,500 円	3,458,500 円	109,000 円
正科生（学士）	1,991,000 円	2,811,000 円	△820,000 円
正科生（リカレント）	19,044,000 円	17,139,000 円	1,905,000 円
科目等履修生	7,870,000 円	11,233,000 円	△3,363,000 円
在学生（合計）	32,788,000 円	29,776,000 円	3,012,000 円
正科生（1 年次）	12,489,500 円	10,133,000 円	2,356,500 円
正科生（学士）	5,340,500 円	4,273,500 円	1,067,000 円
正科生（リカレント）	8,696,500 円	7,947,500 円	748,000 円
正科生（編入学）	197,500 円	233,000 円	△35,500 円
科目等履修生	6,064,000 円	7,152,000 円	△1,088,000 円
特修生	0 円	37,000 円	△37,000 円

在学生の学費増加は、正科生（1 年次、編入学）は、履修学生数の安定（中退、休眠者の減少）の可能性を考えている。
平成 28、29 年度の正科生（1 年次）は、68%（平均）の在学生が、 卒業等の目的のため、学習を継続している。また、平成 28、29 年度の正科生（学士編入学）は、49.9%（平均）の在学生が同様に学習を継続している。一方、平成 27 年度の正科生（1 年次）は、28%の在学生しか履修していない。
よって、在校生が学習を継続できる仕組みを再編し、正科生（1 年次）の入学者は、目的達成のため、4 年または、それ以上（12 年まで）学習する（できる）ことで、学費の安定・増加（在学生）が見込めると考えている。

（内訳表 6）
履修学生数（4/26 現在学費納入者）

学生区分/入学年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
正科生（1 年次）	13 名（45 名）	32 名（47 名）	30 名（47 名）
正科生（学士）	1 名（25 名）	15 名（45 名）	32 名（48 名）
正科生（リカレント）	8 名（199 名）	22 名（271 名）	92 名（294 名）

なお、正科生（資格・リカレント編入学）は、定員充足率の向上のため、入学者（資格目的）を科目等履修生とするのではなく、意図的に正科生（資格・リカレント編入学） へ誘導していることが増加の理由である。

以上